

にぎわいのまちづくり

～食による焼津駅前通り商店街の活性化について～

提 言 書

平成 26 年 11 月 21 日

焼津市議会建設経済常任委員会

委員長 松本修藏

副委員長 渋谷英彦

委員 秋山博子

小柳津健二郎

青島悦世

石田昭夫

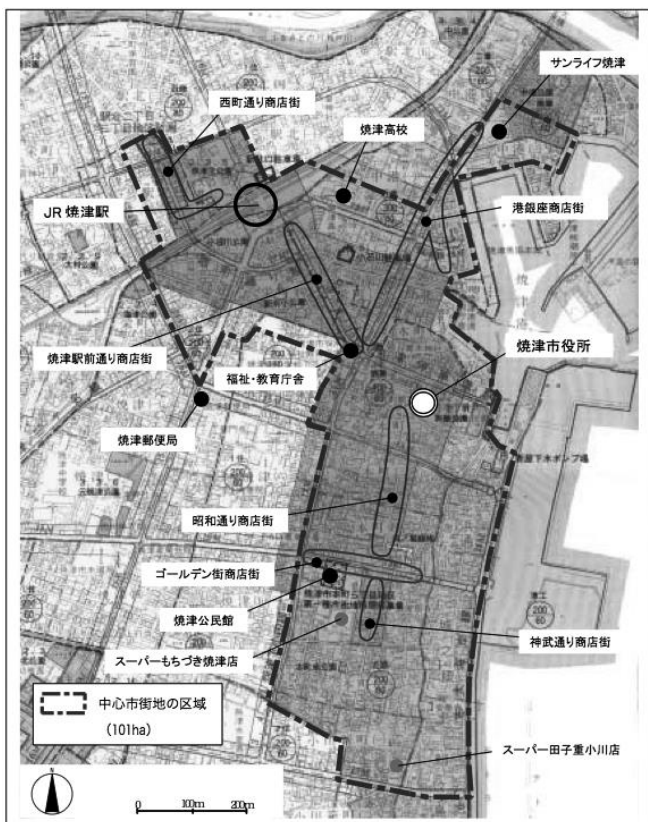
尾石昭夫

1. はじめに

近年のモータリゼーション化により、郊外への住宅開発、公共施設の郊外移転、大型商業施設の進出がすすみ、その結果、駅周辺など既存の中心市街地の空洞化や衰退が地方都市において問題となっている。焼津市においても例外ではなく、調査結果においても、早急なる対策が求められている。

国の政策では「中心市街地の活性化の推進に関する法律（平成10年6月30日施行）」のもと、市町村による基本計画の作成および計画に基づく事業に対する特別の措置等を定めている。また平成26年9月には「地方創生本部」が設立され、地方自治体の企画次第で交付金を支給する案が検討されるなど、まさにいまこそ地方の創意と実行力を発揮しなくてはならない。

焼津市においては、「焼津まちみがき計画（焼津市中心市街地活性化基本計画）」を策定し、加えて平成23年3月策定の「第5次焼津市総合計画」では、「人が訪れ、消費が拡大する観光の振興」を重点施策の一つに位置付けた。また、「焼津市観光ビジョン（平成24年度～平成28年度）」では、基本方針を「海の恵みと豊かな自然を活かした観光振興」と定め、観光素材の発見と掘り起こし、観光資源の利活用など、6項目を重点戦略としてアクションプランを策定している。



焼津市の中心市街地（焼津市中心市街地活性化基本計画より）

*焼津市では「中心市街地」を JR 焼津駅及び中心市街地商店街を中心とした上記の太点線内のエリア約 101ha と設定している。

以上のことから、建設経済常任委員会においては、観光におけるにぎわいを、「食」「見る」「体験」の3つと捉え、今回の提言では、対象エリアを市の玄関口である駅前通り商店街として、「食」をテーマにした駅前通り商店街のにぎわいづくりの提言とした。提言の策定にあたっては、関係機関との意見交換会や地元商店街の皆様へのアンケートを実施した。

※アンケート結果は巻末に掲載

2. 焼津駅前通り商店街のにぎわいづくりへの提言

< 1 > 焼津の食を生かす

●現 状

- ・ 多くの経営者が商店街消滅の危機感を持っているが、取り組みへの足並みが揃わない。
- ・ 駅前通り商店街は焼津の顔であると自負している。
- ・ 焼津のイメージは「魚」であると感じているが、商店街に魚関連の店舗が少ない。

●課 題

活性化の必要性は痛感しているが、商店街全体として危機感を共有できていないため、焼津の玄関口という好立地をにぎわいづくりの資源として生かすことができていない。

提言の概要

駅前通り商店街では焼津の産業である「魚を生かしたにぎわいづくりが必要」という認識はあるものの、魚関連の店舗は少なく、魚のまち焼津をアピールできていない。たとえば当委員会が視察した大分県豊後高田市「昭和の町」ではコンセプトと看板・掲示板・パンフレット・パッケージ等すべての表示に一体感があり、昭和をまちの個性としてアピールし、エリアのイメージづくりに成功していた。駅前通り商店街でも、焼津の玄関口にある商店街として、「焼津の食」を生かした政策が早急に求められる。「日本一の魚のまち焼津」という全国的な知名度と期待に応える商店街を目指し、店舗づくり、新メニューの開発、新規開店、市民や企業参加による食の催事、魚食文化を実感し体験できる場づくりなど、「魚」をテーマにした多彩な事業を展開し、新たな食のストリートとして再生する必要がある。

このようなことから駅前通り商店街のにぎわいづくりには「魚をメインにした焼津の食のストリート」として再生する取り組みが必要である。

推進すべき事業

(1) 日本一の食（魚）のストリートとしての再生計画

- ストリートの将来像と目標、タイムスケジュール、誘致戦略、ネーミング、マークや看板などの表示計画、市民参加・企業参加の仕組み、必要な支援制度など、再生計画を作成する。
- 日本一の鰹と鮪・鯖を中心に、魚関連店を集中的に呼び込んで、ストリートを育てていく。
- ネーミングの例として「鰹通り」「鮪通り」「かつまぐストリート」など。表示計画には、魚河岸模様のマイナンバープレートや屋号のまちプロジェクトを参考とし、「焼津らしさ」を表現する。
- 呼び込む店舗としては、鰹・鮪・鯖以外に、全国的に知名度の高い「磯自慢」「しらす」「桜えび」「サッポロビール」「アメーラ」をはじめ、「高草紅茶」「焼津おでん」「黒はんぺん」「なると」など、全国に発信したい地域食にもスポットをあて、トータルで焼津の豊かな食文化を体験できるエリアの創設。
- 既存の新規開店補助制度に加えて、魚食関連の出店に新たな補助制度を設け、出店を促進する。

(2) 焼津らしい文化とおもてなしの場を整備

- 販売店舗だけでなく、魚食文化の体験・展示・試食などができるミュージアム的なエリアを設ける。
- 定住者や観光客へのおもてなし感を高めるおやすみ処、障がい者や高齢者が訪れやすく集まりやすい居場所、子育ての駅・赤ちゃんの駅、多言語表記など、にぎわいのためのフリースペースを設ける。

< 2 > リノベーション（遊休不動産の新たな活用）の推進

●現 状

- ・ 20代30代の経営者が少なく、高齢化がすすんでいる。
- ・ 建物を耐震化する意識が薄い。
- ・ 経営者の約7割が経営を継続したいと考えているが、後継者問題を抱えている。
- ・ 空き店舗が多く、焼津の玄関口にある顔としての商店街らしさがない。

●課 題

商店街を支える経営者の世代交代が進んでいないため、若い世代の集客・魅力的な店舗づくり・地震津波対策など、活性化に向けた積極的な取り組みが生まれにくい。

また、商店街の結束力、各種支援やまちづくりについての学びと情報収集力、サービス向上を目指す連携の仕組みやイベント企画発案力などが育っていない。

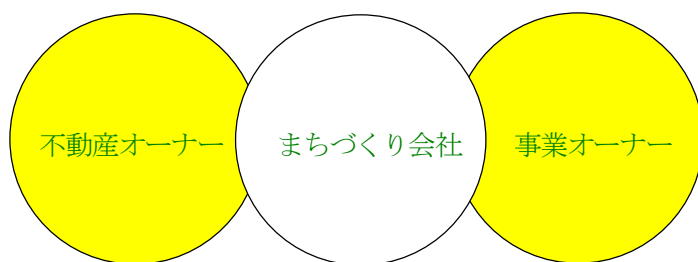
提言の概要

商店街の再生には世代交代をすすめ若い世代を担い手として巻き込むことが不可欠である。既存建物などの遊休不動産を生かし、起業や開店につなげてまちに変化をもたらす「リノベーションまちづくり」を早急に構築し、取り組む必要がある。例えば当委員会で視察した北九州市のリノベーション「小倉家守（やもり）構想」は中心市街地の空きビルや空き店舗・遊休地・空き家などを再生して、にぎわい復活に成功し、全国の市町が導入を始めている。商店街当事者・市民・行政が連携し、焼津が好き・焼津らしさを愛しているという若い世代の気持ちを事業展開につなげ、焼津駅前通り商店街のにぎわいづくりを創造する。

このようなことから駅前通り商店街には「リノベーション（遊休不動産の新たな活用）」によるにぎわい再生の取り組みが必要である。

* リノベーションまちづくりとは、単なる改修・改築とは異なり、遊休不動産などの空間資源を新しい使い方で積極的に活用することにより、まちに変化を生み出すこと（『リノベーションまちづくり』清水義次著）

推進すべき事業



(1) リノベーションをすすめるための人材育成

- 先進市の視察と研修による意識改革と手法を学ぶ体制を整える。

(2) 民間主導のリノベーションをサポートする場づくり

- ビジョンに基づいたリノベーションまちづくりを民間主導で実現するために、必要な組織づくりをすすめる。(例：まちづくり協議会や商店街活性化組合など、遊休不動産のオーナーと事業者をコーディネートし、運営のサポートを行う組織。香川県高松市の丸亀町商店街は時代が求める個性豊かで自律的な地域社会を目指し、民間主体で町づくり会社を設立し再生に成功している。)

< 3 > 行政が主となる面整備とハード整備等

●現 状

- ・ 一方通行が駅前通りへの客足を遠ざけている。
- ・ 駅前に自由に使える広場がなく人が集まらない。
- ・ 駅舎に魅力がなくエレベーターやブリッジなど構造的に使いにくい。
- ・ 旧港や浜通り（旧市街地）との回遊性がない。
- ・ 公共交通機関（市内循環バス・自主運行バス）の利便性が悪い。
- ・ 大型バスの駐車場が駅周辺にない。

●課 題

J R 焼津駅舎・駅前広場・駅前通りには、ユニバーサルデザイン、防災等の多機能性、回遊性、大型バス対応駐車場、導線への配慮がなく、時代ニーズに対応した整備が必要である。

提言の概要

明治 22 年の東海道線開通以来、J R 焼津駅は物流や交流の拠点として焼津の発展に大きな役割を果たしてきた、焼津の玄関である。駅舎は昭和 40 年に改築、平成 10 年から平成 15 年にかけて駅前南口広場の整備が行われ、エレベーターやブリッジが継ぎ足しのように設置されたものの、ユニバーサルデザインや防災面での課題が残っている。また、駅前には黒潮温泉の足湯コーナーがあるものの、市民が自由に集える広場スペースや、周辺に大型バスの駐車場もなく、人が集まるためのハード整備が不足している。さらに平成 10 年から平成 12 年の駅前通りの改修（S 字カーブ、一方通行、バス停留所の変更）が、かえって客足を遠ざけたのではないかという指摘もある。今後、焼津の玄関にふさわしいエリアの魅力を高めるためには、人口推計に対応したコンパクトシティ化や公共施設マネジメント計画と連動した中長期にわたる整備が不可欠である。

このようなことから「旧福祉庁舎跡地の駐車場利用」と「駅前通りのユニバーサルデザイン」の整備、さらに長期的には「駅舎の改築」「駅前広場の整備」の検討が必要である。

推進すべき事業

(1) 旧福祉庁舎跡地を駐車場利用

- 駅前通り・旧港・旧市街地へとアクセスしやすい大型バスが駐車できるパーキングとして整備する。

(2) 駅前通りのユニバーサルデザイン

- 高齢者・外国人・障がい者・子育て家族に配慮した、歩道・案内表示・ベンチ・オープンカフェ等を設置する。

(3) JR焼津駅舎の改築

- 津波防災機能をそなえた複合ビル（食料品・お土産・観光案内・行政窓口・図書館・子育てサロン・高齢者サービス・医療機関・イベント会場等）を検討する。

(4) 駅前広場の整備と足湯の活用

- 市民が自由に集い、イベント会場としても利用できる広場の整備及び足湯の活用を検討する。

3. 結びに

市当局におかれては、都市計画マスタープランを土台とし、市総合計画や中心市街地の活性化対策等との整合を図りながら「将来の焼津」の都市像を描く「焼津市未来まちづくり計画」を市民参加のもと策定中である。

その中で「中心市街地活性化基本計画」については、「中心市街地の活性化に向けて、将来を見据えた“にぎわい”を創出する拠点地区の在り方を踏まえながら、ソフト及びハード両面から新たな計画を定める。」としており、本提言が焼津市のにぎわいづくりの一助となれば幸いである。

また、これを契機に行政並びに関係機関（者）が更なる連携を図ることを願うものである。

なお、本提言の策定にあたり、意見交換会やアンケートにおいて貴重なご意見ご協力をいただいた方々に、心から厚くお礼を申し上げます。

建設経済常任委員会の活動経過（平成25年度～平成26年度）

<平成25年度>

回	開催日	内 容
1	4月3日	調査テーマの選定について
2	4月22日	調査テーマ「にぎわいのまちづくり」に決定
3	5月16日	京都府長岡京市視察：食による街の活性化「白黒竹食街道」について
4	5月21日	調査・研究項目について協議、検討
5	6月20日	調査事項の協議、検討
6	7月22日	調査の進め方について協議
7	8月19日	焼津商工会議所・大井川商工会・焼津市観光協会と意見交換会 調査項目（研究テーマ）について協議
8	8月21日	調査項目について協議、検討
9	9月5日	調査項目について協議、検討
10	9月13日	政策提言内容の検討
11	9月24日	中心市街地活性化等について市の現状、取組について当局より説明を受ける
12	10月15日	群馬県高崎市視察：中心市街地の活性化について （高崎まちなかオープンカフェ・高崎まちなかコミュニティサイクル）
13	10月28日	政策提言について協議、検討
14	11月20日	政策提言について協議、検討（観光における“食”について）
15	12月13日	政策提言について協議、検討（観光における“食”（場所・食文化の発信）について）
16	1月21日	政策提言について協議、検討（観光における“食”（場所）について）
17	2月10日	政策提言について協議、検討（観光における“食”（場所）について）
18	3月7日	政策提言について協議、検討（観光における“食”（場所）について）

<平成26年度>

回	開催日	内 容
1	4月3日	政策提言について協議、検討（観光における“食”（場所）について）
2	4月21日	政策提言について協議、検討（観光における“食”（場所）について）
3	5月14日	大分県豊後高田市視察：「豊後高田昭和の町づくり」について

4	5月15日	福岡県北九州市視察：門司港レトロの取組について（観光プラン・現地視察） 小倉家守構想（空き店舗のリノベーション）について
5	5月16日	福岡県久留米市視察：B級グルメの聖地（まち）久留米事業について
6	5月21日	政策提言について協議、検討（“食”における場所について）
7	6月3日	焼津駅前通り商店街へのアンケート調査実施について協議
8	6月30日	焼津駅前通り商店街の方と意見交換
9	7月22日	アンケート項目について協議、検討
10	8月21日	アンケート項目について協議、検討
11	8月25日 ～ 9月10日	アンケート調査実施
12	9月12日 ～ 10月8日	アンケート調査回収、集計、分析
13	10月9日	提言内容の検討
14	10月10日	提言内容の検討
15	10月21日	提言内容のとりまとめ
16	11月11日	提言内容のとりまとめ
17	11月21日	定例全員協議会にて報告 市長に提出

駅前通り商店街アンケート調査

【アンケート調査の概要】

調査対象：焼津駅前通り商店街

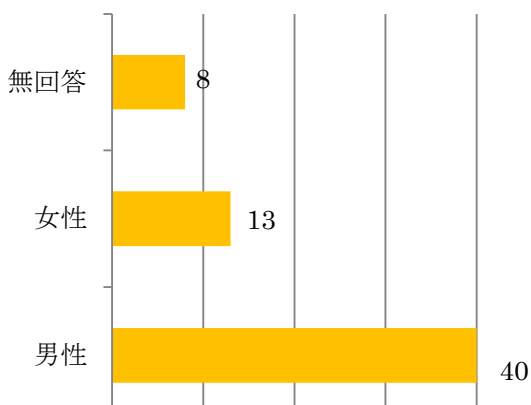
調査期間：平成26年8月25日～9月10日

配布件数：64件

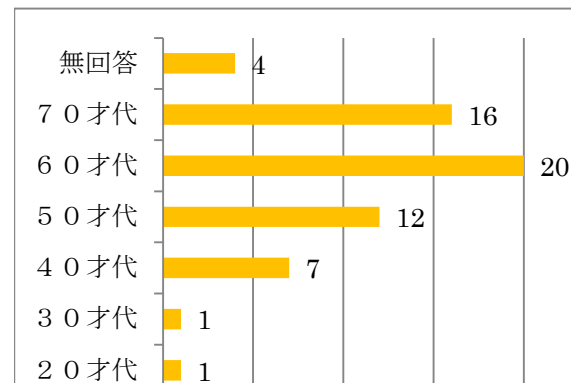
回答件数：61件（回収率：95.3%）

【アンケート集計結果】

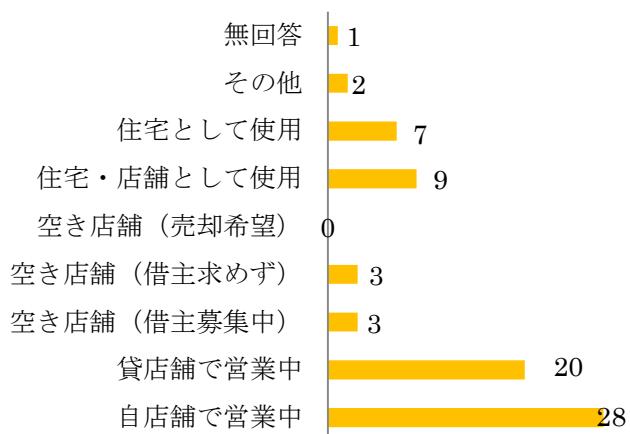
1. 経営者性別（人）



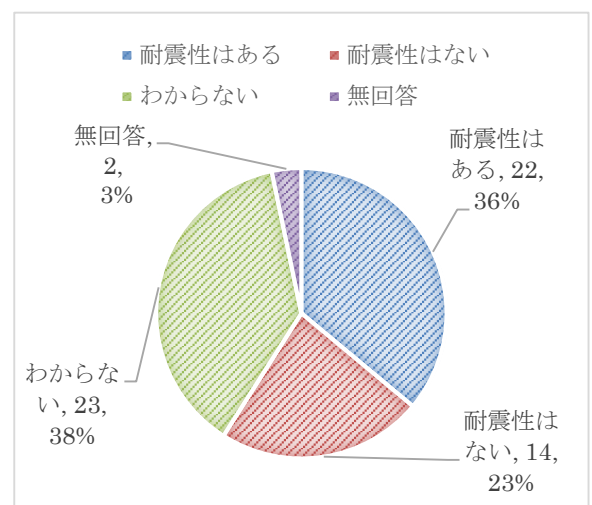
2. 経営者年齢（人）



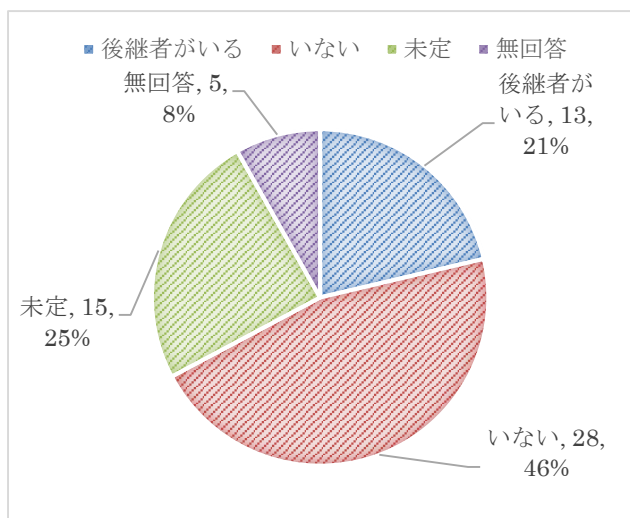
3. 店舗状況（人：複数回答あり）



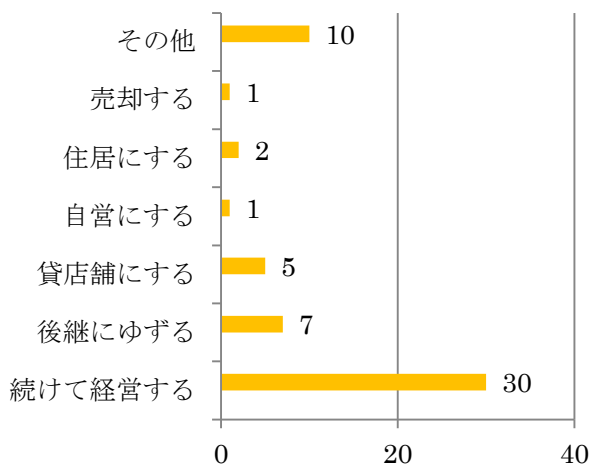
4. 建物の耐震性（人：%）



5. 後継者について (人 : %)

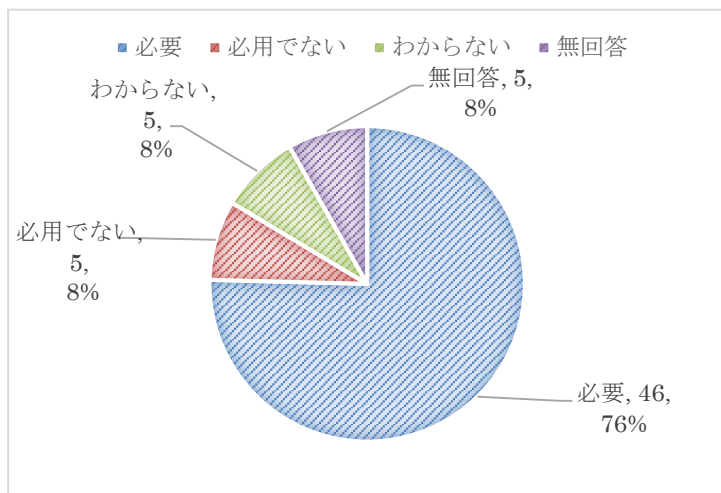


6. 今後の経営について (人)



- ・後継にゆずる 7人 > 5年以内 4人・10年以内 3人
- ・貸店舗にする 5人 > 5年以内 4人・11年以上先 1人
- ・自営にする 1人 > 5年以内 1人
- ・住居にする 2人 > 5年以内 1人・10年以内 1人
- ・売却する 1人 > 10年以内 1人

7. 商店街の活性化について (人 : %)



以上のアンケート集計結果と多数いただいた自由意見は、駅前通り商店街当事者が直面している厳しい状況を再確認させるものであった。なお、アンケート調査の全結果は別添のとおりである。

Q7 経営を継続していく上での問題点や課題を自由に記入してください。

- ・今後の借主の問題（いるかどうか？）
- ・道路の一方通行が活性化を妨げている
- ・人通りが少ない
- ・人が集まる店とか施設がなにもないのに、後を継がせることはないと思っている。
- ・通行量、特に人の流れが少ないこと。焼津らしさのある（例えば魚をその場で焼いて食べさせる）活気が必要。それに伴って物も動くこと…
- ・前を向いて元気よく活動していく仲間（店）が少ない
- ・高齢になったため、いつまで出来るかわからない
- ・一方通行を廃止して自由に通れるようにする
- ・高齢化しているから
- ・駅前商店街の一方通行。今の（駅を背中に帰る）を反対に駅に向かって来ていただく一方通行にかえた方がいいと思います
- ・課題と問題点ともに合わせ持っていますが、2階店舗ですので事務所の利用は可能ですが、一般のお店や飲食等には不向きな為、借り手が見つかりにくい。何かあればお声を掛けて下さい。対応致します。
- ・個店、個々が頑張ってお客を増やしていくしかないと思うが、全体を見れば高齢化と後継者不足と商店街としての寿命がきている
- ・商店街の人通りがまったくと言うほど少なくなるこの頃ですが、商売上、冬に適している商品は夏場は大変ですが、冬場に向けて売れる違う品物を考えていきたいと思います
- ・集客。新規客獲得と顧客の固定安定化。駐車場の不足
- ・焼津駅前通り商店街の一方通行が、駅から150号へ向かう一方通行の為、遠方からの来店客が来にくくなったのが問題
- ・来街者の減少
- ・世代交代をする方法。継承、売却等

Q8 駅前商店街の活性化は必要だと思いますか。

1. 必要 46人 2. 必要でない 5人 3. わからない 5人
無回答 5人

【1理由】

- ・近隣駅前と比較しても必要
- ・駅には人が集中しますので、商店街に呼ぶ努力が必要であり、活性化が必要
- ・駅前通りなので人が歩いていなければダメ。車の出入りが反対だと思う
- ・駅から降りて店がないのは不便
- ・若い人にやってもらう
- ・集客したいから
- ・人が通らないから
- ・焼津駅のすぐの商店街で、また、焼津港に通じる道にある商店街だから
- ・昼間でも人が全然通っていなくて、商店街とは言えないと思います
- ・焼津市の玄関としてももう少し活性化したい
- ・焼津の顔だから
- ・人がいなければ商売にならない
- ・若者が駅に降りて買い物したり休んだりする所がない
- ・駅前だから
- ・後継者不足、景気の悪さによりシャッター通りになっている。タイムリーに活性化は必要です
- ・JR焼津駅に接する商店街としての使命的役割が「焼津の顔、玄関」としての賑やかさだと思う。これからの元気な焼津のシンボルとして駅前通りの活性化は不可欠
- ・一方通行はよくない。昔みたいに両方通行できた方が良いと思う。店が早く終わってしまう。シャッター通りで暗い感じがする。人が通っていない
- ・人通りが多く、また、活気があると購買意欲が増す
- ・焼津市の顔であるはずの駅前が死んでいます。駅前通り商店街の一方通行も大失敗です。（せめて国道からの一方通行であれば少しは望みがあったと思う）
- ・焼津市の顔だから皆で協力して頑張る事
- ・バスが通っていた時の方が良かった。一方通行は？
- ・駅前商店街で生活している以上、現状より活気がある商店街になることを望むのは当然です
- ・商業地域という区切りの中にいるわけだから商業を営む権利がある。それを最大限生かすには商店街という組織は必要だと思う。ただ今のままではなく
- ・人が増えていく様に考えていかないと、と思うのですが、家賃が必要ではない所は日曜日休みが多く、もっと日曜日も開けてくれる様にお願ひしたいと思います
- ・市として駅周辺のにぎわいは当たり前前に考えていただきたいし、市民・働く者としてぜひ、まず

駅舎（駅）を新しくするべきだと思います。高齢化も踏まえて住宅だけではダメ。おのずと駅地近くの商店は努力しなければならないし、利便性やサービスも考えなければ

- ・①駅前に「駅前イベント広場」がないこと ②特に、駅前通り商店街の一方通行は、焼津駅へ向かう一方通行にすべきであり、現状の一方通行では、どのようなイベントを行っても活性化は望めない（無駄である）
- ・焼津市の玄関口としての賑わいが欲しいから。JR焼津駅・焼津市役所・焼津港に囲まれたまさしく中心市街地である地域なので
- ・駅がなくならない限り、人の集まる拠点・腐っても玄関口なので商店街という狭い範囲に留まらず面で考えるべきだと思います
- ・遠くまで買い物に行くことが不便
- ・西小川辺りが栄えています、駅前が寂しすぎる。駅前に地元の人、観光の人がいないと町が死んでるように見える
- ・私の仕事上、あちこちに行きますが駅前がこの様に人気（ひとけ）のない所は少ないです。一方通行も不便です

【2理由】

- ・道路改善しない限り現状に変わりなし。もとの道路に戻すこと（余分なものは作らない）
- ・行政で決めているから店主の意見は通らない
- ・これ以上の空き店舗には耐えられません。すでに30年以上の空き店舗が有り
- ・商業地よりも住民サービスを充実させてください

【3理由】

- ・活性化とは？教えてください

Q9 駅前の賑わいづくりのために必要な取り組みについて、3つ以内で選んでください。

- | | |
|------------------------------------|-----|
| 1. イベントなどの開催 | 10人 |
| 2. 新規に开店したい人への支援 | 16人 |
| 3. 出前や配達などのサービス | 3人 |
| 4. 営業時間の延長 | 2人 |
| 5. 定休日の統一 | 6人 |
| 6. 大型店や専門店、娯楽施設などの出店 | 15人 |
| 7. 歩道のバリアフリー化や駐車場設置など環境整備 | 10人 |
| 8. 近隣住民と商店街との交流の強化 | 2人 |
| 9. ベンチなどのくつろげる施設の整備 | 7人 |
| 10. 公共交通機関を充実させ、利便性を高める | 17人 |
| 11. 隣接する観光スポットとの連携 | 4人 |
| 12. 学生と商店街が協力し、新しい発想を取り入れる | 6人 |
| 13. 既存の店舗の魅力を向上させる | 15人 |
| 14. 八百屋、肉屋などの生鮮食品店の出店 | 3人 |
| 15. 焼津特産の食事処やお土産店等を増やし、特化した商店街を目指す | 15人 |
| 16. 昼間に営業する飲食店、小売店などを増やす | 13人 |
| 17. 夜間に営業する飲食店、小売店などを増やす | 6人 |
| 18. その他 | 3人 |
| 無回答 | 6人 |

【自由記載】

- ・駅から港（新港）への人の導線確保のため、新港を魅力的にする仕掛け（大型店でなく、港との関連がある「海・港・魚に繋がる」店舗や施設）を、官民一体で誘致する事がすべてのカギ
- ・魚に限らず特化した店がいいように思う
- ・一方通行の解除
- ・一方通行をやめて両方向とする
- ・一方通行をやめ交互通行にし、バスに通ってもうらう（以前のように）
- ・手始めに空き店舗をなくすことが重要かと。歯抜けはさびしい
- ・全部に○を付けたいです。商店街が死んでいる
- ・一方通行から両面通行に戻して欲しい
- ・商売をやめたので答えが見つかりませんが、駅前通りの活性化を願っています
- ・今や駅前の賑わいも風前の灯となりました。やがては住宅地に変貌することと思います
- ・個性ある店舗造りをしないとダメかと思えます
- ・若い人達が増加するような取り組みが必要
- ・駅前商店街は50年以上が過ぎている、現状は寿命が来ている。未来に向け50年いや30年使える新しい町組合を作らないと時代に合って行かない。何かに特化し、癒し・健康・自然などを同時に混ぜた、まちづくりが必要では。それから細かい戦略が出てくると思う
- ・昼間の営業時間が短く食事する所がまったくないとの事を多く聞かれますが、昼間の営業時間を

- 1時間か1時間半位伸ばすとよいのではないかと思います
 - 駅前という立地を活かすにも現状では難しいです。新規に開店する店が増えれば駅周辺でのイベントは今や市民主導で開かれていくと思うので、人の集まる広場やきれいなトイレ、新しい駅舎などが、まず必要では
 - 浜松駅前商店街でも企画している音楽イベント「やらまいかミュージックフェスティバル」と商店街との連携。さらに、焼津港を極端ではあるが「競艇場カジノ」に変えれば、外部から焼津駅に大勢降りて、町は活性化し税収も集まる
 - 駅から旧港の動線を生むためにも旧港の活用、浜通りの開発でトライアングル地域に民活が働くように計画されたし
 - 新規出店は現実的ではない（自営でやろうとしている人の絶対数が少ないので）から既存店を再活性化させた方がいいと思います。
- 他の市の様に駅前でのイベントを大々的にやり、賑わいを見せる。コンビニ、スーパーの出店

Q10 主幹産業である魚を活かした賑わいづくりは必要だと思いますか。

1. 必要 34人 2. 必要でない 7人 3. わからない 13人
無回答 7人

【1理由】

- ・ 現有のイメージと資源は活用すべきだし「テーマ」をぶれないものにする。また、高齢者も参加しやすいもの
- ・ 「焼津」というイメージを向上するのに一番
- ・ 「焼津市はお魚の町です」とPRする必要があると思うから
- ・ さかなセンターは来客が多く成功したと思いますが、町の商店との結びつきはなく、どうしたらまちなかと結びつくことができるか
- ・ 焼津は漁業の町で漁業が衰退してしまうと焼津が衰退してしまう
- ・ 焼津の特色だから。焼津色、オリジナリティを駅前通りに色濃く出したい
- ・ 焼津は漁業しかないのです。あと温泉と魚の町にするべき
- ・ 焼津＝魚が世間のイメージとしてあるならば当然必要
- ・ ほかに何も無いから
- ・ 出来る事なら、焼津を最も活かすには必要と考えます
- ・ さかなセンターより安い魚屋ストリートと名付け打ち出せば、さかなセンターの客の何%かは集客できる。いつも安い guard されれば「魚アウトレットストリート」とか。駅前から近いのが強い
- ・ 地域の特性を出すのに、他との差別化がしやすいと思います（食品は価値観があるしわかりやすい）最近のB級グルメブームや日帰りランチ旅など集客に利用できると思います
- ・ 地元の焼津水産加工業者が市外・県外から魚を仕入れて加工しているようでは、主幹産業の「魚」を活かしているとは言えない。根本の考え方が誤っている
- ・ 焼津＝魚というイメージ・知名度があるので、せっかくあるブランドなので活用することと新しいイメージ作りをしていくことが大切ではないかと考えます
- ・ 一番の近道であり、得意分野なのは… ただし、得意分野ゆえに雑になったり手を抜いたりするから悪いと思います
- ・ 他から来た観光客の人達が、魚を楽しみに来たのに残念。インターに近い場所で食べるより海の近くに、海を眺めながら食事の出来る所があったらいいのに…と聞くこともよくあります

【2理由】

- ・ あまりにも市費県費が使われすぎていると感じる
- ・ 魚に限らず、お客様にとって魅力あるものを中心にして活かしていく必要がある
- ・ 生ものはロスが多いから
- ・ 魚を食べさせるにも損して得をする様な店がない。魚の街（町）にするには他の街（町）に無いようなどんぶりからはみだす様な例えばまぐろ丼の店とか

【3理由】

- ・ 魚は限りあるものだからいつも手に入るとは限らない
- ・ 鰹三昧を開いてもあまりおいしいとの事を聞くことが少ないので

Q11 最後に賑わいのまちづくりに関するアイデア、ご意見・要望などがありましたら自由に記入してください。

- ・ 誘致には相手企業が「膝を乗り出す」プランが必要。市民も含め、市内外に対し旧市中心部再生プランのコンペでも実施したらどうか？
市内外においては、①高校・大学に対しても呼びかけ ②若年雇用支援・新卒応援ハローワークとも連携し、バリューチェーンの創成でローコスト大型プロジェクト化
①・②においては必ず協賛が得られると確信している。

- ・①新たな主幹産業を生み出し、関連ビジネスを作る ②料金の安い駐車場があるといい ③東北へのフェリーの発着場が焼津にあると、集客・活気にも関係してくるのではないかと思う
- ・①焼津港に釣り堀があたらよいのでは ②焼津港に巨大な船（客船）など、寄港したら ③実習船や、焼津で活躍している漁船の見学会をしたら
- ・税金を減らし老人若者が安心して住める場所にする。人が住めば店はできる。特に駅前通りは藤枝より静岡へのアクセスが良い
- ・賑わいは物販店・飲食店が多いほど、より効果的になるような気がする。とにかく物販と飲食店が増えて欲しい
- ・漁業に関係したまちづくりにすべき。沼津に負けている。水族館とか観光船を作る。お客様に言われますけど「焼津はなにもないですね」とよく言われる
- ・駅前通り商店街個々の意識改革が必要
- ・第2さかなセンターを駅前に創る。観光の魚を使った各種の店を開く。「お魚っと（おとっと）市場」。駅から歩いて行ける観光スポット
- ・何回も同じようなアンケートを受けていますが、全く進展がみられません。今回も同じような質問が並んでいますが、つながりというものはないのでしょうか
- ・ポイントは商店街を盛り上げてくれる20~40歳くらいのポジティブな若者。そういう若い人への支援など…。何をおいても一方通行のことは一番にやるべき事と思います
- ・銀行がなくなり客足がめっきり少なくなりましたので、どこかの支店ができれば良いのですが
- ・イベントもその時のものだけで終わってしまうので無意味です
- ・焼津市以外の方々（他県含む）に焼津のイメージとは何かをしっかりと確認し、それを焼津駅前で出来る事ならアピールできる店づくりが必要と考えます。ただし言うのは簡単ですが、新しい風（商店街以外の方々）が入らないと難しいと考えます
- ・町づくり会社を立ち上げ、長期ビジョンで対応できる組織を作らないと。片手間の仕事では何もできない。ただ自然分解を待つだけ
- ・駅周辺を整備し、港や海までの導線ができれば近隣からの集客が望めますし、魚や特産品の消費やPRにもなります。市内に分散しているイメージのスポットをテーマ別にひとつくりずつ、集合体化させれば、各々の施設も活用できるのではないのでしょうか
- ・とにかく、各店自身の意識改革が町づくりに必要。外見だけ取り繕う閉鎖的な町づくりでは、町・商店街の活性化は望めない。
焼津駅前周辺沈滞化状況の一番の原因は、焼津駅前にイベント広場のような駅前広場（人工的に小さくて良い）がないことである。以前、所用で滋賀県草津市の東海道線JR草津駅に降りた時、JR草津駅前には、駅前イベント広場があり、若い人々が行き交い活気に溢れていた。さらに、その商店街の店主に話を聞くと駅前イベント広場によって、その相乗効果によって、駅前商店街も賑わい、町づくりも成功していると話していた。このようなJR草津駅前の町づくり成功例を焼津の町づくり関係者も視察に行き焼津市の町づくりの参考にすべきである。
焼津市の市議会議員などの公人が、ただ単に、つまらない箇所に視察に行き夜の宴会を楽しみにしているようでは、お話にならないだけでなく、市民税の無駄遣いであり市民税を「死に金」にしているだけである。
「アクアス焼津」の事業失敗もそうした所にも問題がある。とにかく、今までの焼津市の町づくりが駄目であった以上、今後は町づくりの意識改革からスタートすべきである。
「これをやらずに外見だけ取り繕っても意味は無い」
- ・第3セクターのまちづくり会社を大至急設立して、中心市街地の活性化の機関車になってもらう
- ・旧港を人が集まる拠点に（理想は小樽港）駅・港・浜通りのトライアングルの角の開発がキモだと思います
- ・駅を使う以外（電車・バス）の目的が焼津駅には少ないので、楽しみを提供できる何かをもっと増やしたらいいと思います
- ・焼津=おいしい魚料理が沢山あるよ。それにつられて毎週来るよ。そんなお店がもっとあちこちに出来て欲しい。自分の家みたいな気楽な店が…。
輪島の市のように、いろんな人たちと話をしながら生きていきたい